

コード No. 10351

**Anti-Human  
PDGFR $\beta$  (22B1) Mouse IgG MoAb**

容量 : 100  $\mu$ g

- はじめに : PDGFはA鎖, B鎖, C鎖とD鎖により、PDGF-AA, PDGF-AB, PDGF-BB, PDGF-CC, PDGF-DD のホモおよびヘテロダイマーの形成が報告されています。一方、PDGFRには $\alpha$ 鎖と $\beta$ 鎖があり、PDGFR- $\alpha$ , PDGFR- $\alpha\beta$ とPDGFR- $\beta\beta$ の3つのホモおよびヘテロダイマーの形成が報告されています。PDGF-AとPDGF-CはPDGFR- $\alpha$ 鎖に、PDGF-BはPDGFR- $\alpha$ 鎖とPDGFR- $\beta$ 鎖に、PDGF-DはPDGFR- $\beta$ 鎖に特異的に結合します。すなわち、PDGF-AAとPDGF-CCはPDGFR- $\alpha$ を、PDGF-ABはPDGFR- $\alpha$ とPDGFR- $\alpha\beta$ を、PDGF-BBはPDGFR- $\alpha$ とPDGFR- $\beta\beta$ およびPDGFR- $\alpha\beta$ を活性化します。また、PDGF-DDはPDGFR- $\beta\beta$ のみならず、PDGFR- $\alpha\beta$ をも活性化し得るとの報告があります。レセプターが活性化されると細胞内領域のチロシンキナーゼ活性が上昇し、チロシン残基の自己リン酸化が起こります。
- 本モノクローナル抗体は、ウエスタン・ブロッティング、免疫沈降試験により、PDGFR $\beta$ を認識し、PDGFR $\beta$ 発現細胞に対するFACS解析も可能です。また、本抗体の添加によって、リガンド結合に依存的なPDGFR $\beta$ のリン酸化が誘導されないことも確認されており、中和抗体として使用していただけます。
- 免疫抗原 : Human PDGFR $\beta$  の細胞外領域のリコンビナントタンパク質
- 起源 : マウス $\times$ マウス ハイブリドーマ (培養上清)  
(X63 – Ag 8.653  $\times$  BALB/c マウス脾臓細胞)
- クローン名 : 22B1                      サブクラス : IgG<sub>1</sub>
- 精製方法 : Protein A による特異精製
- 包装形態 : 1 % BSA, 0.05 % NaN<sub>3</sub> 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥
- 再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加 (この時濃度は 100  $\mu$ g/mL となります)
- 保存方法及び安定性 : 2~8  $^{\circ}$ C 保存                      5年間安定  
溶解後 -20  $^{\circ}$ C 保存                      2年間安定
- 使用目的及び使用方法 : ウエスタン ブロッティング 1~5  $\mu$ g/mL にて使用可能  
免疫沈降法 3~5  $\mu$ g/test にて使用可能  
FACS 解析 0.1~0.5  $\mu$ g (1 $\times$ 10<sup>5</sup> Cells あたり)にて使用可能  
中和活性有り(PDGFR $\beta$  発現細胞株において、20 ng/mL のリガンド結合に依存的な PDGFR $\beta$  のリン酸化を指標とした時、10  $\mu$ g/mL の抗体添加により中和活性を確認)  
\*中和試験に用いる場合は、BSA と NaN<sub>3</sub> を含まない抗体をご用命ください。(製品番号 10351F)
- 特異性 : TIG-7 細胞を用いたウエスタン・ブロッティング法にて特異性確認